



第204通常国会開会日行動 (衆議院第2議員会館前 2021・1・18)

## 5月予定の国会請願の成功めざし 署名の自主目標を達成しよう!

新型コロナウイルスの感染拡大緊急事態宣言再発令中の1月18日、通常国会が開会しました。菅義偉首相は施政方針演説で、「新型コロナウイルス感染症を一日も早く収束させる」と強調しました。しかし、国民が求める無症状感染者の発見・保護のPCR検査の抜本的拡充、医療機関への減収補てんと医療従事者への支援、飲食店の時短要請への規模に即した十分な補償など、政府の感染防止への積極的な施策はありませんでした。

一方、「Go To トラベル」には第3次補正予算1兆円余を組む本末転倒ぶりです。コロナ対応の特別措置法・感染症法改正で罰則と制裁の強権体質をあらわにしましたが、国民の声に押されて入院拒否者への刑事罰は削除、撤回に追い込まれました。さらに、改憲議論を改めて呼びかけました。

被爆者・国民が待ち望んだ核兵器禁止条約が1月22日発効しました。唯一戦争被爆国の菅首相は、これを無視しました。

10月までには総選挙がたたかわれます。菅自公政権を打倒し、市民と野党の共同で国民誰でもが安心して暮らせる社会を野党連合政権でつくろうではありませんか。

5月予定の国会請願成功めざし、コロナに留意し署名を集め、紹介議員を増やすため、地元議員事務所を訪問・要請しましょう。

2万人の同盟建設めざし、各県・支部は会員拡大の自主目標を握って、支部建設と結んで目的意識的に活動しましょう。



No. 560

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
編集発行人 田中幹夫

〒113-0034 東京都  
文京区湯島2-4-4  
平和と労働センター・全労連会館  
電話 03(5842)6461  
FAX 03(5842)6462  
E-mail  
chian@bz03.plala.or.jp  
頒価 50円

### 主な記事

- 青森県五所川原市議会が意見書採択 ..... 2
- 私も一言／全労連・青年部書記長・稲葉美奈子 ..... 3
- 顕彰碑／島崎藤村の姪 島崎こま子 ..... 5
- 抵抗の群像／谷口善太郎元衆議院議員 ..... 6
- 同盟文芸／短歌・俳句・川柳 ..... 7

# 青森県五所川原市議会で同盟意見書を採択



|       |            |                                     |         |     |
|-------|------------|-------------------------------------|---------|-----|
| 請願第5号 | 2.11.24 受理 | 治安維持法犠牲者国家賠償法の制定について国への意見書の提出に関する請願 | 2.12.17 | 採 択 |
|-------|------------|-------------------------------------|---------|-----|

昨年末の12月17日、五所川原市議会は「治安維持法犠牲者国家賠償法」の制定について国への意見書の提出に関する請願を採択しました。市議会定数は22人（共産党議員は1人）、採択は「11対10」という僅差の結果となりました。

青森県内では過去に8町村が採択していますが、県内10市の中では初めてであり、こ

10年以上は結果として採択に至るケースはありませんでした。五所川原市を中心とする西北支部は県内西北部に位置し11年に県内5番目の支部として10人で結成され現在会員は20人です。結成当初から議会請願に取り組み20年まで毎年のように請願を行い前回は「8対12」、今回8回目での快挙となりました。

会員からは「よく通った」「すごいね」「今まで続けてきたかきもあつたからだね」などの声が多くあがり、他支部からもすばらしいの声と自分の支部も頑張ろうとの感想が寄せられています。

成功の要因としては、①採択させるという支部の強い意志、②前年の反省を踏まえ説明文や資料などを変更、追加し議員訪問などを続けたこと、③共産党議員との強い連携（共産党議員は1人ですが前議員は同盟前支部長、現職は現副支部長）などがあげられます。

青森県本部はこの経験を生かす次のステップに進んでいく思いを皆で確認しています。

（青森県本部・鎌田哲成）

「学習会」きっかけに支部結成。支部づくりは、会員が具体的に積極的に参加していくうえで欠かせないもの。という自覚はありましたが、実際には何をすればいいのか？なかなか動き出すことができませんでした。

そんな状況でしたが、「活動方針は、県本部の方針を受けて」で20年11月1日に在任会員34人で支部結成に至りました。

始動開始の活動は「学習会」。県本部主催で行われた学習会の内容「自由はこうして奪われた。治安維持法10万人の記録」で行うこととし、南部支部だよりで案内と声掛けをし、6人の参加がありました。

「学習会」の内容も良かったのですが、何よりも、会員の皆さんが「集まり」を喜んでくださり、次を待っていてくださることで支部活動を通じて、仲間づくりを進めていきたいと思えます。

（山梨県・甲府南支部事務局・遠藤昭子）



核兵器禁止条約が先月22日に発効しました。このニュースを聞いて、すぐ頭に浮かんだのは、「ヒバクシヤ国際署名」

を訴えていた女子高校生の姿でした。炎天下、玉の汗を流して呼びかけていた彼女の顔が目の前に、パッと広がりました▼禁止条約を批准した国や地域の名前は聞いたことも少なく、どこにあるかもすぐに浮かばないような「小国」が多く含まれています。これらの国々の活動には未来への希望を強く感じます▼対照的なのが、唯一の戦争被爆国である日本の態度です。これに対して被爆者をはじめ126氏がよびかけた「日本政府に禁止条約を求める署名・批准を求める署名」が始まっています。彼女も訴え続けることでしょう▼秋までに必ず行われる総選挙で、野党連合政権が実現すれば、禁止条約への参加に道が開かれます。また治安維持法犠牲者に対する国家賠償法制定への道も開かれるでしょう。このチャンスをも市民と野党の共同で生かしましょう。

（鶴）

## さわやかな笑顔、身の引き締まる思いで街宣

雪がちらつく昨年の12月16日、長野県飯田伊那地域の飯伊支部同盟員3人で初めての街頭宣伝行動を行いました。年間計画をもとに3人の会員で、宣伝内容をあらかじめ原稿にし、のぼりと署名用紙を用意し、竹内会員カーを使っていざ出発。飯田イオン、喬木J.R、豊丘道の駅、高森ドンキ、松川キ

ラヤと5カ所、2人ずつ交代でリレートークをしました。個性がひかり、画期的なものとなりました。葉会員は、自身が生まれた昭和8年に治安維持法によって、多くの方が逮捕、弾圧されたこと。熊谷会員は、学術会議の任命拒否、コロナ禍で職を失った人々、このコロナ禍で職を失った人々、のこりと。竹内会員は、小学生にもわかる言葉で、戦争をしていた時代、いのち懸けて戦争はやめて下さい

と闘ったこと。静かに聞き入る方、うなずきながら聞いて下さる方、もありました。終了後、水野会員にパチリと写真を撮って頂きました。手探りの宣伝行動でしたが、終了後のそれぞれの笑顔、寒さが身を引かれ、明日からのエネルギーになりました。今後は、年2回の行動を目標に、今回行けなかった地域に行こうと思えます。

## 秘も一言

昨年10月に愛媛県から上京し、全労連青年部で書記長の任務に着任いたしました。それまでは愛媛県松山市の臼井法律事務所事務職員として働いていて、事務所に届く「不屈」を毎月楽しみに

## 真っ先に読むのが「抵抗の群像」

### 稲葉美奈子

してました。なかでも真っ先に読むのが「抵抗の群像」のページで、

私は高校生の時に9・11とその後の世界が戦争に向かっているという恐ろしさを目の当たりにし、戦争のない平和な世界を作りたいと思って活動をしてきました。日本政府がいまだに賠償はおろか謝罪もしていないということには驚きを禁じえません。

治安維持法による犠牲者とその家族の一日も早い名誉の回復



治安維持法下で拷問や弾圧を受けながらも、戦争に反対し、平和と民主主義を希求して、学び、行動する姿に胸を打たれ、心が震えま

と謝罪と賠償を行うことが、過去の戦争を反省し、憲法前文に込めた思いを実現することになると思っ

（長野県・飯伊支部・竹内恵美子）  
兵庫県・灘支部を39人で結成  
昨年10月12日に開催された「久留島香世子さんを偲ぶ会」を契機に12月20日、小牧英夫弁護士を講師に迎え「治安維持法と今日の学術会議任命拒否を考えるつどい」を灘区在住の会員に呼び掛けて開きました。

治安維持法犠牲者の名誉回復を要求することは、今日的意義を大きくはらんでいることを改めて知ることができました。

また、劇映画「伊藤千代子の生涯」紹介ビデオを鑑賞。その後コロナ禍のもと参集した19人で灘支部の結成を確認しあうことができました。

総会では、名誉顧問に小牧弁護士、相談役に県本部の築谷氏を承認、支部長・秦野健、副支部長・堀征代、事務局長・青柿早苗が選出され、署名・仲間増やしなど4本の柱で活動を進めていくことを決定しました。

なお、年内に会員を16人増やし39人の支部として発足しました。（築谷時雄 兵庫県本部副会長）



### 秋田県、最上会長が各支部総会で「女性の差別・人権の戦争・弾圧時代と今―ジェンダー平等をめざす闘いと女性史の教訓」と題して学習会

秋田県本部は、各支部の総会時に学習会を行っています。  
 今回は「女性の差別・人権の戦争・弾圧時代と今―ジェンダー平等をめざす闘いと女性史の教訓」をテーマに最上健造会長が講師をつとめました。

最上会長の講演の主な内容は次のとおりです。

一、明治から敗戦までの女性差別  
 ここでは教育勅語の「夫婦相和し」が男尊女卑の極みであったこと、女性蔑視の社会で目覚めた女性がいたこと等。

二、戦争と抑圧下の女性  
 この項では、良妻賢母から軍国の母にされたこと。戦争協力した知的女性と、真の女性解放は社会変革と戦争反対でこそ実現されると闘った女性について話した。

三、憲法とジェンダー平等  
 戦争協力の女性と、闘った女性には終戦をどう迎えたか、等を話した。

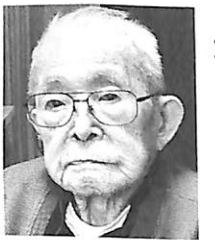
四、自民党の女性観・女性政策  
 自民党国会議員等の数々の暴言、「やる気の無さ」等も紹介した。

五、闘った女性の存在を歴史の表に  
 一番大事な項目です。戦争協力した女性が、戦後は平和と民主主義の旗手になっているが、それは戦争責任の曖昧化と新憲法により、闘った女性の存在を歴史の表に

だが社会変革で闘った女性たちの評価は行われていません。それは国賠同盟の歴史的事事となつていいます。海外の例も紹介し「歴史の谷間の花に光をあてよう」と呼びかけました。

同盟活動の継承と発展にとつて、過去の歴史に光を当て歴史の未来を照らすことが重要となつていきます。

(秋田県本部・最上健造)



### 【訃報】杉浦正男さんが死去

元産別会議事務局長・治安維持法犠牲者の杉浦正男さんが1月12日死去されました。享年106。増本会長が弔文を送りました。

1914年8月20日、東京・深川で生まれ、小学校卒業後、文藝工として印刷所で働き劣悪な労働条件改善のため労働組合活動に参加。37年、「出版工クラブ」を結成。42年11月、その活動が治安維持法違反(目的遂行罪)とされ横濱署に検挙、横浜刑務所に投獄されました。45年10月、「横浜事件」

の政治犯らと共に釈放、直ちに印刷版の労働組合づくりや民主印刷所の設立に参画。49年、産別会議幹事。副議長・事務局長を歴任。60年、東京出版印刷製本産業労働組合執行委員長、東京都労働委員会・労働者側委員、88年、印刷出版OB会結成と代表世話人などを歴任。

「産別会議の財産を平和と労働運動に役立てる」という解散決議の実行のために「産別残務整理委員会」を発足させ、66年「平和と労働会館」(新橋)を建設。その後継会館として同盟中央本部も入居する「全労連会館」(文京区湯島)の建設に参画、理事。01年開館に尽力しました。

最晩年、104歳まで治安維持法弾圧による国家的犯罪を糾弾し、犠牲者への国による名誉回復・謝罪・賠償を求める国会請願に参加、活躍されました。

著書に『戦時中印刷労働者の闘いの記録』『労働組合のつくり方活動の仕方』『若者は嵐に負けない』『若者たちへの伝言』『メーデーの歴史』他。

**戸崎賢二さんが死去**  
 戸崎賢二さん(元NHKデレクタ)が1月11日死去しました。享年81。戸崎さんは、「私も一言」「市吉澄江さんと『放送委員会』のこと」を(2016年9月号)「寄稿いただきました。謹んでご冥福をお祈りいたします。」

### 顕彰碑 探訪

## 『新生』のヒロインから革命の人生へ

### 島崎こま子

島崎藤村の姪で小説『新生』のモデルとなった島崎こま子さんが、戦前、治安維持法犠牲者の救援活動や、戦後、共産党員として「第二の人生」を全うしたことはあまり知られていません。

昨年11月に支部長の三浦みさをさんと妻籠宿(現南木曾町)に島崎こま子と戦後一緒に活動した同盟員の古畑和一さんご夫妻を訪ね、奥様の弟の伊藤伸三さんからもお話を聞きました。

3・15事件で博も検挙され、こま子は救援組織や婦人同盟に加わり、山本宣治の葬列にも参加します。救援活動の中で、彼女も検挙され特高警察の拷問を受けます。32年に博とともに上京し長女紅子を出産しますが、非合法活動に入った博と連絡の取れないまま無産者託児所で働き、極貧生活で体調を崩し、一時、板橋養育院に収容されました。

37年、生まれ故郷の妻籠にもどり、戦後は村の子どもたちに書道を教え、共産党に入党、「細胞」(現支部)を結成し旺盛な運動を始め、その活動や読書会で出会ったのが古畑和一さんでした。57年に紅子とともに上京し、73年、満85歳で波瀾の生涯を閉じました。

「島崎こま子墓」と書かれた墓石は妻籠宿光徳寺墓地にあり、伊藤さんと古畑さんが墓守りをしています。(古畑昌夫・長野県塩尻木曾支部副支部長)



### 大阪でも治安維持法同盟青年部を

大阪でも青年部をつくらうと相談を受けました。青年部について少し調べてみると、2011年6月に奈良県で青年部が立ち上げられ、18年には東京で「青年部決起集会」が行われていました。その動画がYouTube(ユーチューブ)に上がっていますがそこには、治安維持法のおかしさと、それが現代の共謀罪や秘密保護法につながる問題であることが分かりやすく紹介をされています。

国賠同盟の取り組みは、治安維持法で犠牲となった方の名誉回復と、真相を明らかにすることにありまます。そして、このとりくみを青年にも引き継いでいくことで、今も行われている人権弾圧や権力の暴走に対して、向き合っていくことにつながると思います。

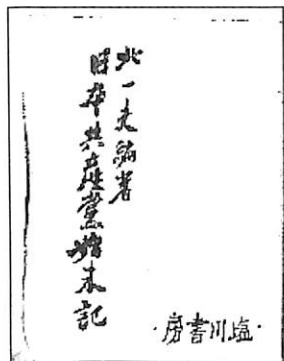
青年部をつくっていくためにも、「まずは青年の仲間」を増やしてと声かけも始めました。大阪でも青年部をつくるために、力を尽くしていきたいです。

(豊中市・山本いっとく)

### 中央本部・新蔵書

#### 『日本共産党始末記』

著者 北一夫  
 発行 一九二九年二月五日  
 B6判 三六〇ページ



著者は、和歌山県出身、警視庁担当の新聞記者。  
 序文で警視総監丸山隆吉は「思想混沌たる時代において、健全なる国民のたどるべき道を指示した好読み物」と推薦している。

三・一五事件当日  
 一道三府三〇懸で全国一斉検挙が「突如として、疾風の如く、また嵐の如くに行われた。」と書いています。

三・一五、四・一六、各県ごとの詳細も記載。共産党幹部の経歴も記載しています。  
 この本は、国会図書館の資料、インターネットで見られます。

抵抗の群像



京のまち・京のひと 谷善の顔がある

—谷口善太郎

谷口善太郎は1899年、石川県能美郡国府村和気(現能美市)の貧農の家に生まれ、苦学して高等小学校を卒業し家計を助けたために15歳で陶器職人となります。また短歌を新聞や雑誌に投稿する多感な文学青年でもありました。

会の真実を追い求め、陶工仲間達と生き方の模索をはじめます。あらゆる事象が関心事になり、本物の労働組合を知り、行動を始めました。以来34歳までの12年間、これが生活の活動拠点となります。

18歳で母を亡くし22歳で父を亡くしました。父の借金の清算で田畑を処分し、捨て身の覚悟で、弁護士になろうと1921(大正10)年京都に出ました。資金を得るため、東山今熊野の陶器職人として、人一倍働きます。ここは、後に労働争議が連続する中心となる地域です。

谷口(以下「谷善」と呼ぶ)が最初から関わる京都陶磁器労働組合は、京都市間労働組最大の組合に成長します(最大時830人対象者組織率30%)。この間の「谷善」の活動密度は超人的で①清水焼労働者のストライキをはじめ頻発する労働運動の先頭に立った②科学的社会主義を学び、日本共産党の創立に関わり入党③京都労働学校の創設に加わり、その京都の実践教訓を踏まえ、日本労働組合評議会創立大会で日本の労働組合として初の「労働者教育に関する方針書」を提案④結婚し地域の人々

と深く結びつく生活⑤山本宣治代議士の誕生に深くかわかる⑥3・15事件で逮捕。拷問による酷い喀血で「責付出所」となり特高監視下で自由を奪われる⑦病床の中で『日本労働組合評議会史』を完成⑧「綿」や「清水焼風景」など一連の「小説」を書き始めました。小説家「須井一、加賀耿二」「谷善」作品の特徴は、冒頭部をドキュメンタリー風な表現で、情景やテーマのリアルさを際立たせる手法です。そして、作家の冷厳な鋭い眼による階級的構造の全体的把握を感じさせながら、本文は労働者の生活と現実を丁寧な描き、読者へ問題を投げかけ、共感を呼ぶことでリアルさを表現。「清水焼風景」(須井一)は検閲による弾圧を受けながらも7版刷で大ヒット作品となりました。「谷善」と同時期に闘った陶磁器職工達が「自分たちのことが描かれている」と照れくさそうに言っていたのを思い出します。谷善の作品から、プロレタリア小説の神髄を見ることが出来ます。戦後は政治家として登場

49年衆議院議員に当選。50年1月、統一戦線運動から「全京都民主戦線統一会議」を結成し、中小企業庁長官を辞職した蜷川虎三氏の出馬を決意させ、民主府市政実現に大きな役割を果たします。マッカーサーにより公職追放されますが、10年後京都1区から衆議院議員に当選、議席奪還。4回連続当選、国会議員団長を担いました。寺前元衆議院議員は、生涯忘れない「谷善」の姿について「議席奪還した翌年の今熊野小での演説会だ。聴衆でいっぱい会場に集まる参加者の多くが、紋付き袴で正装しているのに、ものすごく感動した。本当に地域から慕われ尊敬されている政治家の姿だった」と述べています。谷善は、労働運動の中でも、小説の中でも、政治運動の中でも、働く庶民の気持ちばかり、ことの本質を自覚できるように庶民を激励する暖かさがありました。そして権力者には、これほど厳しい人もなかったと伝えられています。責付II被告人を親族等に委託し勾留を停止する。(京都府本部・藤田洋)

同盟文芸

短歌

米寿の同志旗持ち寒風に今日も立つマイクで訴える  
私の傍えに 埼玉県 白川 洋子

部屋隅に掛けしちひろのカレンダー子も孫も来ぬ寂  
しさ癒す 岐阜県 和田 昌三

認知症病む菜園上手な隣人が玄関わきに大根そつと  
置きゆく 岐阜県 田中 良

四年目の妻の命日われも子も思いは深し石路が咲く  
静岡県 江川 佐一

足早に動く看護師うらやまし外科病棟に治療の八十  
路 埼玉県 福家 駿吉

コロナ禍に大雪来たる我が家でも老いにむち打ち雪  
かき励む 福井県 元山章一郎

卒寿越え日々震えつつ春を待つ「困っている人に優  
しい」春を 大分県 渡辺 幹生

所持金が一〇〇〇円切つてのSOS反貧困のネット  
ワークより 島根県 小玉 信恵

「学問の自由を守れ」の声響く野鳥の会にも生長の  
家にも 岩手県 柳沼 帝子

『新しき明日をめざして』発行す屈辱など知らぬ岩  
手の歴史 岩手県 小杉 正夫

(選のあとに)新年第一回の短歌欄に、たくさんの  
応募があり、お礼申し上げます。投稿歌をよみな  
ら、あらためて、歌をつくるのは、生きるたたい  
なのだ、という先人の言葉を思いました。今年は激  
動の年。歴史を生きる証の歌を!

俳句

春を添え贈る孫への『資本論』

春近し諏訪に千代子の志 神奈川県 天野三葉子

不屈なる万国津梁日脚伸ぶ 岩手県 畠山 文裕

実る秋実れよ政治国民に 兵庫県 岸本 守

平和とは雑煮と笑顔揃うこと 三重県 橋本しげる

(評)一句目、「春を添え」が実にいい。作者の永  
い学習と実践人生を、若い世代に継承して貰う喜  
びがこの句には溢れている。二句目は、映画化される  
伊藤千代子のこと。

道照らす核廃絶の日が上る 埼玉県 福家 駿吉

(評)核禁止条約が1月22日に発効した。批准国の  
中に日本の名が無いことは寂しい限り。

労働の価値深く読む資本論 大阪府 佐々木雅博

占拠する選挙に負けた支持者たち 東京都 中村 茂樹

コロナ越え神にまかせ無責任 大阪府 大和 峯二

辺野古埋め使わせないぞ遺骨土砂 大阪府 堺谷九条男

望月たけし選

神奈川県 天野三葉子

埼玉県 小池 莊八

岩手県 畠山 文裕

兵庫県 岸本 守

三重県 橋本しげる

埼玉県 福家 駿吉

鈴木いさお選

埼玉県 福家 駿吉

大阪府 佐々木雅博

東京都 中村 茂樹

大阪府 大和 峯二

大阪府 堺谷九条男

嵐圭史氏出演協力

10月撮影開始へ 桂監督決意

劇団前進座の大看板を勤めてこられた嵐圭史氏は、1月15日「赤旗」紙に掲載された苦小牧での映画千代子運動の取り組みを読まれて出演協力を申し出。桂監督は、本年10月撮影開始・21年春完成公開とする決意を固めました。

◆同盟呼びかけの映画製作・上映運動を推進する県・地域レベルの実行委員会が各地に。沖縄県では1月23日全県実行委を開催。

◆製作資金2000口に迫る大成果 昨年1年間、同盟各地の奮闘を軸に上映権は160口、任意募金は数十口相当に達し、資金目標の1/4へと迫りました。

◆PR用DVD好評 伊藤千代子の生涯が20分よくわかると評判です。小規模学習会・会議などで視聴活用を(頒価500円送料込)。

◆1月28日千葉県の講演会で93人が参加し4人が入会。書籍売上が8万円強、募金も3万円越える。

【同盟千代子チーム・藤田】

【同盟千代子チーム・藤田】

【同盟千代子チーム・藤田】

【同盟千代子チーム・藤田】

【同盟千代子チーム・藤田】

【同盟千代子チーム・藤田】

# 「松本五郎さんとの最後の日」

(カメラマン・高橋健太郎)

20年10月24日早朝、松本五郎さんは99歳で亡くなった。17年6月22日に初めてお会いしてから3年と少し、短い中でも松本さんの生活にレンズを向けながらとても深い交流をさせていただいたことに今はただ、松本さんに心からの感謝の気持ちしかない。

生前、最後にお会いできたのは昨年8月22日。その頃、「もう危ないかも……」というご家族の言葉を聞き、僕は焦っていた。松本さんの師範学校時代の同級生で、親友の菱谷良一さんと共に旭川から向かった。入院先の病院に向かう車中、松本さんの娘さんは



松本さんと菱谷さん

## コロナ禍の下での財政活動に お礼申し上げます。

20年度決算(3月末)まであと2カ月です。会費100%納入

運転しながら「最近『今までありがとうな』としか言わないんです」と仰った。その瞬間、菱谷さんは突然泣き出した。そして絞り出すような声で「80年だぞ」とつぶやいた。

こんな菱谷さんの姿を見るのは初めてで、胸が張り裂けそうだった。と同時に、30歳の自分には到底思いも及ばない「80年」という時の流れの現実息をのんだ。

病院に着くと、再会できた菱谷さんは車いすの松本さんを抱きしめに行った。10代から苦楽を共にした彼らの友情が紡ぐ交流に胸が熱くなった。時折、松本さんの体調を気遣いながら、菱谷さんは会話を止めなかった。静かに呼応する松本さんは、思ったよりも元氣そうでした。それに安堵した。

最後に、僕は松本さんにこう尋ねた。「菱谷さんにお伝えしておきたいことはないですか?」と。すると松本さんは菱谷さんを見て、

(現在70%到達)、新年名刺広告、年末募金、『治安維持法と現代』等誌代の納入になお一層のご奮闘をお願いします。

「心の底からの親友だ」と言った。その言葉を聞いて菱谷さんは松本さんの手を握りながらまた号泣していた。僕も涙が止まらなかった。「またな」と菱谷さんが言っていてレベーターで別れたのが最後になるとはこの時、夢にも思わなかった。あの日見た2人の、80年を超える月日の友愛というものを、僕は一生忘れない。そして彼らの写真を残せて良かったと思っている、心から。こんな2人の関係を、3年間、間近で見つめることができたのは本当に幸せだった。そしてまだまだ見続けていたかった。

### 【訂正】

・本紙1月号の7ページ文芸欄、川柳の佐々木さんの句の「地球全滅」を「地球全域」に訂正します。  
・8ページの東京多喜一祭を2月20日に訂正します。

### 事務局日誌

- 1月6日 「不屈」編集会議
- 1月18日 通常国会開会日議員会館前行動
- 同日 会長事務局会議
- 1月20日 国際人権活動に日本委員代表者会議
- 1月27日 全労連会館運営委員会

好評発売中

## 『治安維持法と現代』

2020年秋季号 (40号)



【主な内容】本誌創刊20周年記念特集号。＜巻頭論文＞安倍政権退陣、菅政権の誕生と『現代』誌への期待＝渡辺治。日中両国と両国人民の相互の友好発展のためにも「香港特別行政区・国家安全維持法」に反対する＝増本一彦。憲法にそった「私をたすける政治」をつくらうーコロナ危機を越えるために＝石川康宏。＜基礎学習コーナー＞「歴史修正主義」とは何か＝大日方純夫。ジェンダー平等を達成するための課題＝清未愛砂。アイヌ新法制定から1年＝紙智子。今日の日韓関係の現状と課題＝栗原千鶴。＜エッセイ＞金子兜太の生涯と未来＝望月たけし。歌は戦争を忘れないー古閑祐而と軍歌＝石子順。100年前の世界風邪と与謝野晶子＝古澤夕起子。戦争と独立映画の時代ー山田五十鈴＝澤田勝雄＜研究報告＞伊藤千代子「獄中最後の手紙」発掘秘話＝畠山忠弘。西田信春一闘いの軌跡(上)＝宮田汎。＜治維法廃止75年特集＞「治維法」犠牲者への国の謝罪と名誉回復＝内田博文。戸坂・唯研・三木清ー彼らが拓いた地平＝岩倉博。治維法廃止、思想・政治犯解放へ＝梶原定義。治安維持法下の音楽＝小村公次など。  
A5判 定価1000円、申込みは中央本部・各都道府県本部へ。

治安維持法と現代を結ぶ運動理論誌

発行・治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟



# Please Recommend to the Japanese Government that Japan Apologize to and Compensate for Victims of Maintenance of the Public Order law

July, 2020

## Demand Alliance for National Compensation for Victims of Maintenance of the Public Order law

In Japan for the twenty years until the end of the World War II (1925-1945), there were people who opposed invasion into and colonization of other countries, defended national sovereignty, fought and resisted against oppression. Under Maintenance of the Public Order Act, these people were abused as traitors, rebels or mutineers, tyrannized and oppressed by Special Political Police.

More than 95 individuals including a famous novelist Takiji Kobayashi were butchered in the process, with more than 400 deaths in prison and as many as several hundred thousand arrested, imprisoned, chained and tortured. It was not only within Japan, but the situation was more calamitous in the colonies in the Korean Peninsula as well as old Manchukuo.

These were criminal acts violating the Articles 7 and 18 of the International Covenant on Civil and Political Rights. The Act was abolished in 1945 after the World War II, but the victims of this bad Act have not had their honor recovered or been compensated in any way for the past 75 years. This violation of human rights by the State party has continued even today. This being the case, the Japanese Government has not admitted the last war as an aggressive war; on the contrary, it tries to falsify the history and want to make Japan a country to wage a war again, shouting "the war was to liberate Asia," or "it was for our country to survive and defend ourselves." We believe that in order to prevent reversing the history, the Government should recognize there were abuses of human rights of victims by the Act, and apologize to and compensate for them immediately.

### We wish healing of the wounds of war from the standpoint of international human right and humanitarian law

It is unforgivable to continue ignoring the apology and compensation just because the deeds "had taken place before the International Covenant on Civil and Political Rights was ratified." We sympathize with your indication of legal responsibility and necessity to rescue victims in the "comfort women" system in the "General Conclusions" in 2008 and 2014. The issue of victims of the Maintenance of Public Order Act is another unsolved crime of anti-humanity and anti-human-rights. The victims' struggles and resistances were appreciated in the Potsdam Declaration: "The Japanese Government shall remove all obstacles to the revival and strengthening of democratic tendencies among the Japanese people."

We have been reporting to the Human Rights Committee since 1995 that "the Committee should recommend that Japanese Government admit that the Maintenance of Public Order Act was a bad law and apologize to and compensate for victims of the Act," just like other Western nations did. We strongly request that the Committee include this matter in the List of Issues, and that it recommends the State party that it should do so.

(国連人権理事会へのカウンターレポート)

<奈良県国際部 只今、大奮闘中>

「国賠同盟の日本のたたかいを世界に、連帯、支援も呼びかけよう」と練りに練った日本文完成、英語、韓国語、中国語に、「・・・まだまだ翻訳広げます」と只今大奮闘中。

# 国際部通信

第二次世界大戦終結までの20年間(1925年〜1945年)、日本では、他国への侵略と植民地支配に反対し、国民主権を主張して闘い、抵抗した人々に対し、治安維持法にもとづき特別高等警察などの官吏によって、国賊、非国民、売国奴

など罵られ、暴虐と陵辱が加えられました。小林多喜二など95名以上が虐殺され、獄死者は400人を数え、逮捕投獄、拘束され拷問された被害者は数十万人に及んでいます。日本国内だけでなく、植民地朝鮮、旧「満州国」などではさらに激しく猛威を振るいました。これらは、自由権規約第7条、第18条に違反した人道に反する犯罪行為でした。治安維持法は戦後



国連人権理事会 (ジュネーブ)

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟が国連人権委員会にカウンターレポート提出  
国連人権理事会・自由権規約加盟国政府報告審査についてお知らせいたします。  
昨年(2019年)から日本国政府の報告遅延で日本審査ができずにいましたが、自由権規約委員会は今年(2020年)は何としても実施するという方向で秋に予定していました。しかし世界を襲うコロナ禍で、自由権規約委員会130会期加盟国報告審査は2021年に延期となりました。  
以下は、私たちが国際活動日本委員会を通じて出しているカウンターレポートです。(国連は審査にあたって、『政府報告書では不十分』と、NGOなど国民側の対抗する報告を提出することを奨励しています)  
治安維持法犠牲者への謝罪と賠償を日本政府に勧告をして下さい  
2020年7月7日 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟

1945年に廃止されましたが、戦後75年の今日に至るもこの悪法によって弾圧された人々の名誉は回復されず、一切の賠償もされていません。国家によるこの人権侵害は今日もなお継続されているのです。このような日本政府であるが故に、今日、あの侵略戦争を「アジア解放のための戦争であった」、「自存自衛の聖戦であった」と歴史を偽り、再び戦争できる国にと暴走をしています。私たちは、歴史の逆流を阻止するためにも、政府は治安維持法犠牲者に対して人権侵害行為があったことを認め、謝罪と賠償を直ちに実現すべきであると考えます。

### 国際人権・人道法の見地からの戦後処理を

「自由権規約批准以前」という

ことで治安維持法の犠牲者にたいする謝罪と賠償を無視し続けることは許されません。2008年、2014年の規約委員会の総括所見でも、「従軍慰安婦」制度の法的責任と犠牲者救済を指摘されていることに共鳴するものです。人権・人道に反する罪として、清算されていないもう一つの問題が治安維持法の犠牲者たちです。ポツダム宣言では「日本国民の間における民主主義的傾向に対する一切の障害を除去すべし」と規定され、彼らの抵抗の闘いは評価されました。  
私たちは、1995年以来人権小委員会に「日本政府は治安維持法が人権侵害の悪法であったことを認め、西洋諸国と同じように犠牲者に対して謝罪と賠償を行うように勧告して欲しい」と通報を提出しました。貴委員会が当該問題をリスト・オブ・イシューズに取り上げ、日本政府に対して報告を求められること、治安維持法犠牲者への謝罪と賠償を日本政府に勧告していただくことを強く要請いたします。